

あがつま



『わたしたちは見えるものではなく
見えないものに目を注ぎます。
見えるものは過ぎ去りますが、
見えないものは永遠に存続するからです』

(コリントの信徒への手紙Ⅱ 4章18節)

♪ 賛美歌を歌おう④

『こころを高くあげよう』

(讚美歌第二編 1番)

この賛美歌は、英国国教会の聖職者でヘンリー・M・バトラー (1833・1918) によつて作詞されました。

バトラーはイギリスの名門寄宿学校であるハロウ・スクールの校長を務めており、学生が使用するためにこの賛美歌詞が書かれ、様々な旋律で歌われ、今でもいくつかの寄宿学校の校歌として歌われています。

旋律は、アメリカ聖公会の聖職者アルフレッド・M・スミス (1879・1971) によるものです。旋律名にもなっているスルスム・コルダ (sussun corda) は、ラテン語で「こころを高めよ」を意味します。

この言葉は、哀歌3章41節「天にいます神に向かつて両手を上げ心も挙げて言おう」に基づいていて、カトリック教会では、ミサや聖餐式のはじめに用いられてきました。

日々の生活に追われるなかで、私たちの心は低い所へと落ち込んでしまいます。この地上の事柄、富や名誉にばかり目を奪われている私たちが神の御前に立つに際し、まず心を高く挙げて、天上の事柄へと目を向けることで礼拝がはじまるのです。

ご自分を低いものとして、弟子たちの足を洗い、十字架へと歩まれたイエス・キリストをしっかりと見つめつつ、歌声を合わせましょう。

(稲垣)



